

大正七年

十  
第  
三

5-0191

0050

第14門

秘受0370號

大正七年一月十日接受

大正七年一月十日接受

第...

官房機密第二九號

大正七年一月十日

海軍次官 幣原喜重郎

外務次官 幣原喜重郎

軍艦鳥羽用軍需品ノ掠奪ニ關スル件

重慶在泊ノ軍艦鳥羽ニ宛テ豫テ軍需品ヲ輸送致居候處去ル十二月三十日忠州ニ於テ其ノ一部ヲ掠奪セラレタル趣鳥羽艦長ヨリ別紙寫ノ通報告有之候條委曲別紙ニ付御諒知相成度

右通牒ス

終

大正七年一月八日 着電

海軍大臣 鳥羽艦長

此電報ヲ第五番トス受領セハ其旨電報サレ度  
豫テ上江輸送中ナリシ本艦軍需品ノ一部十二月三十日忠州ニ於テ掠奪セララル掠奪者ノ支那兵ナルヤ土匪ナルヤニ就テハ目下探索中又被害物件ノ取戻シニ就テハ現ニ熊克武ニ對シ交渉シツツアリ(一月七日)

5-0191

0059

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

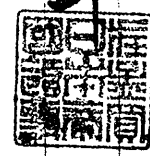
http://www.jacar.go.jp/

次  
三六四

大正六年十二月四日

在孟買

領事 桑島主計



大正七年一月廿一日接獲  
外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

文書課長

文書課長

01285

送

海軍

御用船

阿波丸

寄港

開

送

件

大正七年一月廿一日發送

地中海出動帝國特務戰隊慰問、為御差遣相  
成りし侍從武官四電海軍大佐、一行及同  
戰隊員並、驅逐艦回航委員將校下士等合計  
六百二名ヲ搭載セシ阿波丸、棉花積取り、為若  
月二十八日午後二時當地、寄港致候処同船

在孟買日本領事館

ルドニ收容セル下士等五百五十名、右荷役中他ニ移  
スノ必要有之右、付テ兼テ當地郵船會社支店  
ノ輸出、依リ當地英國陸軍官廳ニ報告、廢棄  
及運搬用自働車ノ貸與並、洗面所、臺所等、  
設備ヲ依頼致候処快ク應諾致候、付阿波丸  
着港、止薪送指揮官南田海軍中佐ト協議シ翌  
二十九日午前中、下士等全部ヲ當地「カスリーン」ドック及  
「クローリー」船、二兵舎ニ分移シ本月四日迄六日間  
同所ニ收容致候  
當此英國海軍部ニ於テモ阿波丸入港ニ際シ小汽  
艇ヲ港外、特派シテ嚮導セシメタルノ外入港前  
若打合、付テモ本官ノ依頼ニ應ジ海軍部ヨリ  
無線電信ヲ以テ通信シ吳ル、等多大ノ便宜ヲ提



供致し候。付テハ本月二日專ラ其ノ銜ニ當レシ陸  
 軍部副官ツシケリ、アンダーニ大尉及シ海軍部副官  
 エチダブリー、ヒネズニ主計少監ノ兩名ト四電傳從武  
 官五：角田中佐以下事玉海軍將校九名名計  
 十二名ヲ當殿官舎ニ招待饗應致候  
 阿波丸碇泊中本官ハ角田中佐ト共ニ孟買有願  
 海軍司令部及陸軍部ヲ訪ヒ其好意ヲ謝シタ  
 ニ何レモ地中海ニ於テハ帝國艦隊ノ偉功ヲ賛稱シ  
 却テ設備ノ不充ナルヲ遺憾トスル旨申述バ尚ホ  
 去ル四日阿波丸出帆。陪シ陸海軍部ハ夫ハ副官ヲ  
 派シテ一行ヲ見送ラシムル等胸ニ好意ヲ表シ候  
 尚又當地在留民中ノ有力者ハ本官ト共ニ阿波丸入  
 港當日ハ汽艇ニテ之ヲ迎ヘ又本月二日將校一同  
 在孟買日本領事館  
 ヲ日本人俱樂部ニ招待シテ晚餐ヲ供シ下士卒ニハ  
 物品ヲ寄贈シ其他招待者ハ皆母ニ皆々當地滞  
 在中内外一般ニ好意歡迎ノ誠意ヲ表シタリハ指  
 揮官以下乗員一同ノ胸ニ満足セル所ト相認メ  
 候布シテ同船ハ今日午前十一時四十五分特卒一  
 同ノ搭載シ新嘉坡ニ向テ出帆致候  
 右報告申進候敬具





七部外務大臣事務

電信課長

大臣

次官

七部

九二(暗)

慶内發  
本名着大要年二月九日反三。

七部外務大臣

矢田部信事

政務

通商

人事

會計

文書

第四号

遠カラ不第一艦隊南支川航ノ趣ニテ当地ニモ  
寄港ス可シト聞ケルガ右事實ナラハ其際定  
月日及碇泊日数御電報ヲ清フ

第14門

參政官

副參政官

要書

濟

書  
〇

傳

九月二日 厦門府 大正二年二月九日 本署 九月三日

東野外務大臣

矢野新信事

海軍省

第四号

今更回官

遠方より第一艦隊南支巡航ノ趣ハ当地ニモ  
号塔下ノセント崗ヶ丘カ右事實ナラハ其協定  
月日及破泊日數海電散ラ清ク

電送第 584 號  
7 年 2 月 2 日 6 時 0 分

第 4 門

電信局  
7 支

政務局  
1 支

第一課  
1 支

待機  
信田

待機  
信田

田  
○

七布吾可の船場の心志しき

本野大臣 宛

在厦門  
矢田部領事

第四號

貴電不四號ニ関シ

海軍省ニ関合セタル処第一艦隊ノ貴校

寄港ハ見合トナリタル趣ナリ

外務省

5-0191

0064

七五二五(原案) (何事)

大正七年二月廿七日接 駐米 第 課

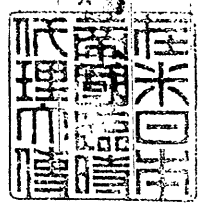
公 第 三 七 號

別紙添附

受05470號

大正七年一月廿六日

在米 臨時代理大使 田中



外務大臣 法學博士 高村本野一郎 殿

軍艦吾妻、パールハーバーニ於ケル採炭

費用ニ因スル件

軍艦吾妻ヲ客年五月ヨリ七月ニ亘リ布哇國パールハーバー軍港ニ碇泊中 供給ヲ受ケタル石炭ノ代金米貨ニ萬四千八百九十五弗九十四仙別紙証憑書書類添付此程當國海軍省ヨリ國務省ヲ通シテ當方ニ

在米國日本大使館

請求有之候 御取調ノ上右金額當館ニ送金方

可也 御取調相成度此段申進候 敬具

追テ御参考ノ迄、當該國務省者米翰寫字

付設置候



要再回

文書課長

大正七年三月一日 接受

大正七年二月二十八日 起算  
同 年 三月 二 日 附

以送第 二 号

號

主任 第二課 備付

主管 政務局長

幣原 外務次官

柄内 海軍次官宛

軍艦 吾妻、パールハーバー (Pearl Harbor)

ニ於テ 採炭費用ニ関スル 件

外 務 省

本件ニ関シ今般在米田中臨時代理大使ヨリ別紙  
寫ノ通リ申越候條委曲右ニ御承知ノ上御送  
金方可然御取計相成候根致度何分儀御  
申答相煩康此段申達候也

別紙 大正七年一月廿六日附在米田中臨時代理大使來信  
公第三七号寫並附屬書全部其儘添付ノ下

文書課長

文書課  
長 検知

大正七年四月廿日 接受

75

大正七年四月十八日 起草  
同 七年四月三十日 附

大正七年四月廿日 送達済

機密(用)

機密送第三四號

主任

主管 陸軍局長



次下七占

急

初内出軍治官

帯束治官

大正七年七月二日 記録第二部 接獲

北条加方面へ軍出派意之關之件

本件之関に露領水産但令之者有

外務省

ハ對し申請及之趣或は官憲係當有

ハP出ノ没身有之ハ案ハオホツラシ北条

加方面ハ昨年未田村制ヲ講止シ自治

委負居リ但儀シ諸般ノ行政事務

ヲ委負會ニ於テ執行スルコトナリ又ハ

越ナレハ沿岸ノ村落民ハ動モスレト車機

ハ本課ニハ北條治官者連シ後ハ

ハ本課ニハ北條治官者連シ後ハ

要再回



二果して然らば本年秋高東ノ東  
 地方に於ては~~...~~ 豊凶ノ異  
 後秋ノ成之不慮ノ所突~~...~~  
 一ノ荒キ起ルナキヲ保セズ本年ハ例  
 年ト異ナリ何ホ事件ノ發生ヲ豫志セ  
 元~~...~~ 外 藩 一 省  
 有~~...~~  
 復~~...~~  
 甘~~...~~  
 事~~...~~ △ 全~~...~~ 幸~~...~~  
 徹~~...~~  
 中~~...~~  
 中~~...~~  
 中~~...~~



大正七年四月廿四日接受

隨第一課



海軍

軍

官房機密第六三七號ノ二

大正七年四月二十三日

海軍次官 枋内會次郎

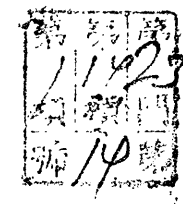
外務次官 幣原喜重郎 殿

堪察加方面へ軍艦派遣ニ關スル件

本件ニ關シ通機密送第三四號御申越ノ趣了承右ハ當省ニ於テモ刻下ノ情勢ニ鑑ミ緊要ノコトト認メ目下測量任務ニ從事中ノ軍艦武藏ヲ來五月中旬ヨリ警備ノ爲露領沿岸ニ於ケル我漁業區方面へ派遣ノコトニ内定相成候條御了知相成度  
右復牒ス

大正七年七月二日 記錄第二部接受

終



次官 幣原

號 7921 受

附屬書類添附

大正七年五月十六日接受

隨第一課



軍

官房機密第七二七號ノ五

大正七年五月十五日

海軍次官 枋内會次郎

外務次官 幣原喜重郎 殿

軍艦武藏派遣ニ關スル件

今般警備ノ爲軍艦武藏ヲ千島列島竝露領沿海へ派遣ニ付別紙ノ通横須賀鎮守府司令長官へ及訓令候條御了知相成度  
右通牒ス  
追テ露領沿海ノ我漁業區ニ於ケル帝國臣民ヲ保護スル爲帝國軍艦派遣方ニ關シテハ本年通機密第三四號ヲ以テ御照會ノ次第モ有之候處軍艦武藏ハ來ル六月ヨリ九月ニ至ルノ間ニ於テ適宜露領沿海

通商局長

政務局

號 9421 受

大正七年五月廿七日 記錄第一課 受

松田 終



海軍

ニ出入可致候條必要ヲ認メラレ候ハ、萬一ノ誤解ヲ避クル爲右ノ  
趣豫メ關係露國官憲ニ通報方可然御取計相成度

別紙五葉別圖一葉添

終

(坂田納)

5-0191



官房機密第七七號

大正七年五月十四日

海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官宛

軍艦武藏派遣關スル件

測量艦兼警備艦武藏ハ一時測量任務ヲ中止シ  
五月下旬横須賀軍港葦島列島並露領沿海ニ派遣シ  
敬言備任務ニ服セシムル様取計ヲヘシ但シ該任務ノ  
遂行ニ關シテハ同艦長ヲシテ別紙ノ件ニテ體直  
接本大臣ノ指揮ヲ受ケ且ツ大湊要港部司令  
官ト氣脈ヲ通シテ行動セシムル様訓令方取計ヲヘシ  
右訓令ス

追テ同艦ハ何處ニ至リケレハ來ル九月下旬本籍軍

港ニ歸還セシムル儀ト心得ヘシ



別紙

第二 帝國領域内ノ警備ニ関スル件

一 警備ニ関シテハ成ルル北海道廳、各支廳ト氣脈ヲ通ス、

二 帝國法令ニ背キ漁獲ヲ為シタル嫌疑アル船舶ハ帝國領海ニ於テ之ヲ臨檢スルコトヲ得帝國船舶ニ對シテハ公海ニ於テ亦全レ

白令海、勘察加海、オコク海及日本海ヲ包含スル北緯三十度以北ノ北太平洋ニ於テ鯨豚獸捕獲ノ嫌疑アル露、英、米國ノ船舶ニ對シ公海ニ於テ亦前項ニ同シ

三 帝國領海ニ於テ帝國法令ニ背キ漁獲ヲ為シタル船舶ハ之ヲ差押ヘ國籍又ハ船籍、船名、船長ノ氏名及捕獲物ニ付尋問ヲ為シ調書ヲ作り之ヲ適當ノ帝國

港灣ニ引致シ書類ヲ添ヘ檢事ニ告発ノ手續ヲ為ス  
ハレ公海ニ於テ帝國法令ニ背キ漁獲ヲ為シタル帝國船舶ニ付キ亦全レ

四 鯨豚獸捕獲ノ理由ニ因リ拿捕セラレタル帝國船舶ヲ露、英、米國ノ軍艦又ハ其ノ他ノ官憲ヨリ交附シ來ルルキハ其ノ附屬書類ト共ニ之ヲ受取りテ檢事ニ告発ノ手續ヲ為ス、ハレ

五 拿捕シ又ハ外國官憲ヨリ受取りタル船舶ヲ自ラ引致スルコト能ハサル事由アルトキハ到着スル帝國港灣ヲ指定シ單獨航海セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ成ルル速ニ其ノ關係書類ヲ添ヘ檢事ニ告発ス、ハレ

六 露、英、米國ノ船舶ニシテ第一號第二項ニ記載シタル區域ノ公海ニ於テ鯨豚獸ノ捕獲ヲ為シタルモノハ之ヲ差押ヘ第三號ニ準シテ取調ヲ為シタル上成ルル速ニ其ノ附屬



- 國相尙官憲(附近ニ在リ裁判官、領事官又ハ軍艦等)ニ書類ト共ニ引渡シ處分ヲ請求スヘシ但シ地理上又ハ任務上、都合ニ依リ速ニ之ヲ引渡ス、手續ヲ爲スト能ハルトモ一時之ヲ便宜ノ場所ニ抑留スルコトヲ得
- 七、第一號第二項ニ記載シタル區域ニ於テ獲取シタル膾虎、腥膻獸又ハ其ノ獸皮ヲ帝國内ニ輸入又ハ移致シタル船舶、第三號ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ
- 現ニ千島群島樺太等、如キ僻遠ノ領海内ニ碇泊スル外國船ニシテ疑ハレキモノハ之ニ就テ臨檢シ其ノ所爲密輸出入ナルトキハ前項ニ準シ取扱フヘシ
- 八、外國船密輸ノ證據充分ナラズ又ハ密輸出入ニテラレモ故ナク帝國領海内ニ碇泊スルモノアルトキハ其ノ國籍船名及船長、氏名等ニ就テ調書ヲ製シ該船ニ直ニ退去ヲ命ジ該調書ハ之ヲ北海道廳長官ニ移牒スルト同時ニ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 九、外國船帝國領土附近ニ立寄り測量ヲ爲ス等ノコトアルハ其ノ領海内ニ在ルモノハ直ニ之ヲ禁止シ領海以外ニ在ルモノハ其ノ理由ヲ質シ爾後ノ行動ヲ監視スヘシ
- 十、機會アリハ千島群島ニ於テ膾虎及腥膻獸ノ狀況及紅魚(鮭鱒)ノ漁況ヲ調査スヘシ
- 十一、巡航中若シ某島近傍ニ近來特ニ多クノ漁獵船集リ又某海峡ハ特ニ漁獵船ノ通過スル所ナリト云フカキコトアリハ本務ニ妨ケナキ限リ其ノ情況ヲ調査スヘシ
- 十二、平常交通ノ便ナキ離島等ニ寄港ノ目的ヲ以テ出航ノ際地方郵便局長ヨリ郵便物ノ搭載ヲ請フトキハ切實ノ議ノ上成ルベク其ノ請求ニ應スヘシ但シ豫定ノ如ク寄港セ

サリレ場合ニ其ノ郵便物ヲ積出シテ郵便局ニ向ケ便宜  
返送スヘシ

三、任地ニ於テ官衙公署等ノ紹介ヲ以テ便乗ヲ願出ル者アリ  
テ事情已ムヲ得スト認ムルトキハ行動ノ都合上指揮ヲ待ツノ  
違ナキ場合ニ之ヲ許可スルコトヲ得但レ事後其ノ旨ヲ報告  
スヘシ

十四、本任務ニ関スル報告ハ努メテ速達ヲ期スヘシ

別紙  
(第三)

露領沿海警備ニ関スル件

一、露領沿海我澳業區(附番参照)ニ於ケル帝國臣民保護ニ関シテハ直接本大臣ノ指揮ヲ受ル儀ト心得ヘシ

二、露領沿海ニ出入ル場合ニ於テハ必要ニ應シ所在露國官憲又ハ公署ニ對シ其ノ艦ノ任務ハ何等時局ニ關係ナク單ニ例年慣行ノ平和的警備ニ過キサル旨ヲ懇切ニ説明スヘシ

三、露國國民ニ對シテハ穩和懇切ヲ旨トシ彼ノ感情ヲ興奮セシメサルコトニ留意シ尚ホ内政ニ干與スル如キ一切ノ行動ハタメテ之ヲ避クルコトニ注意スヘシ

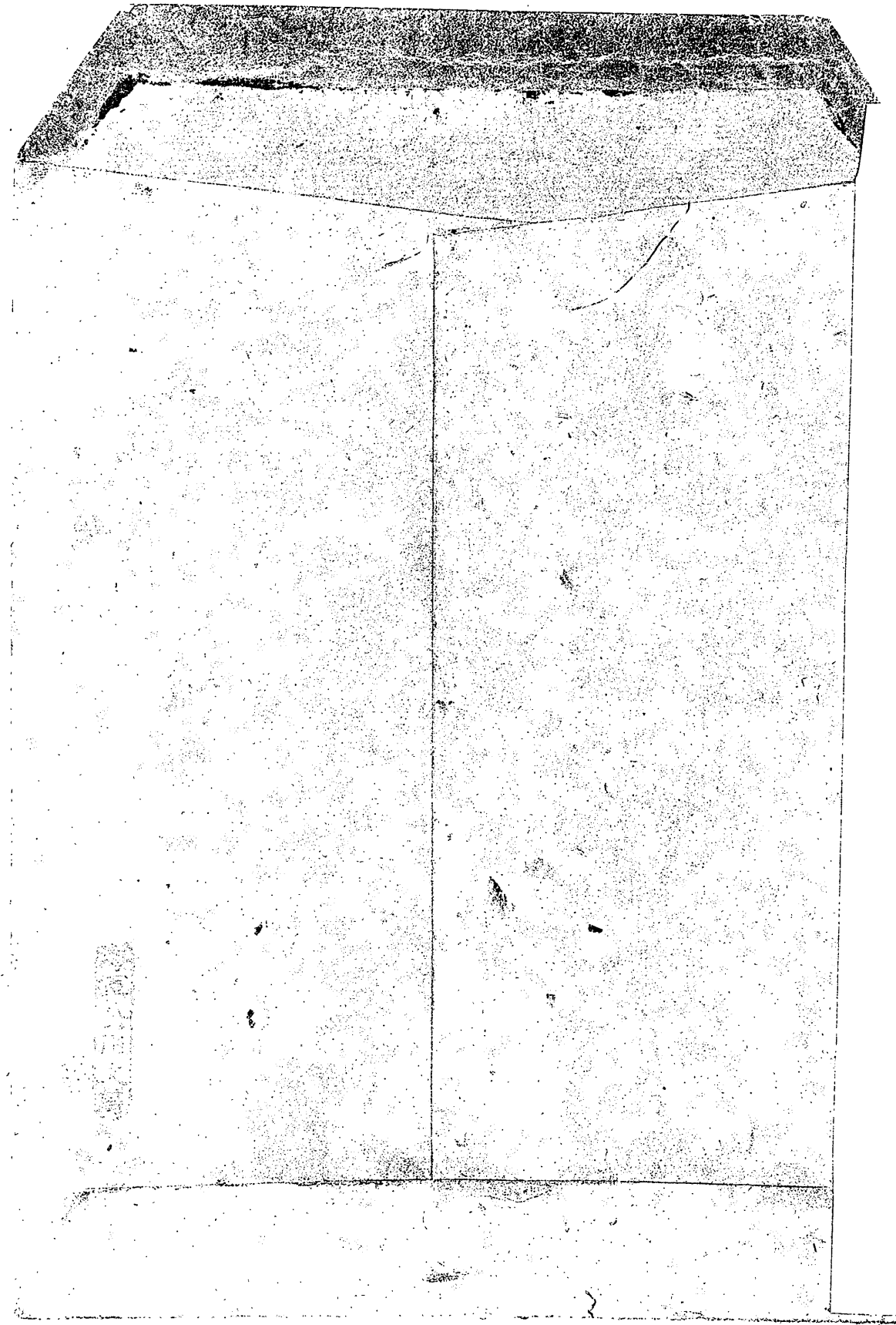
四、帝國臣民保護ノ爲萬一兵力行使ノ必要ナル場合ニハ已ムコト得ル限外事前本大臣ノ指揮ヲ受ル儀ト心得

得



5-0191

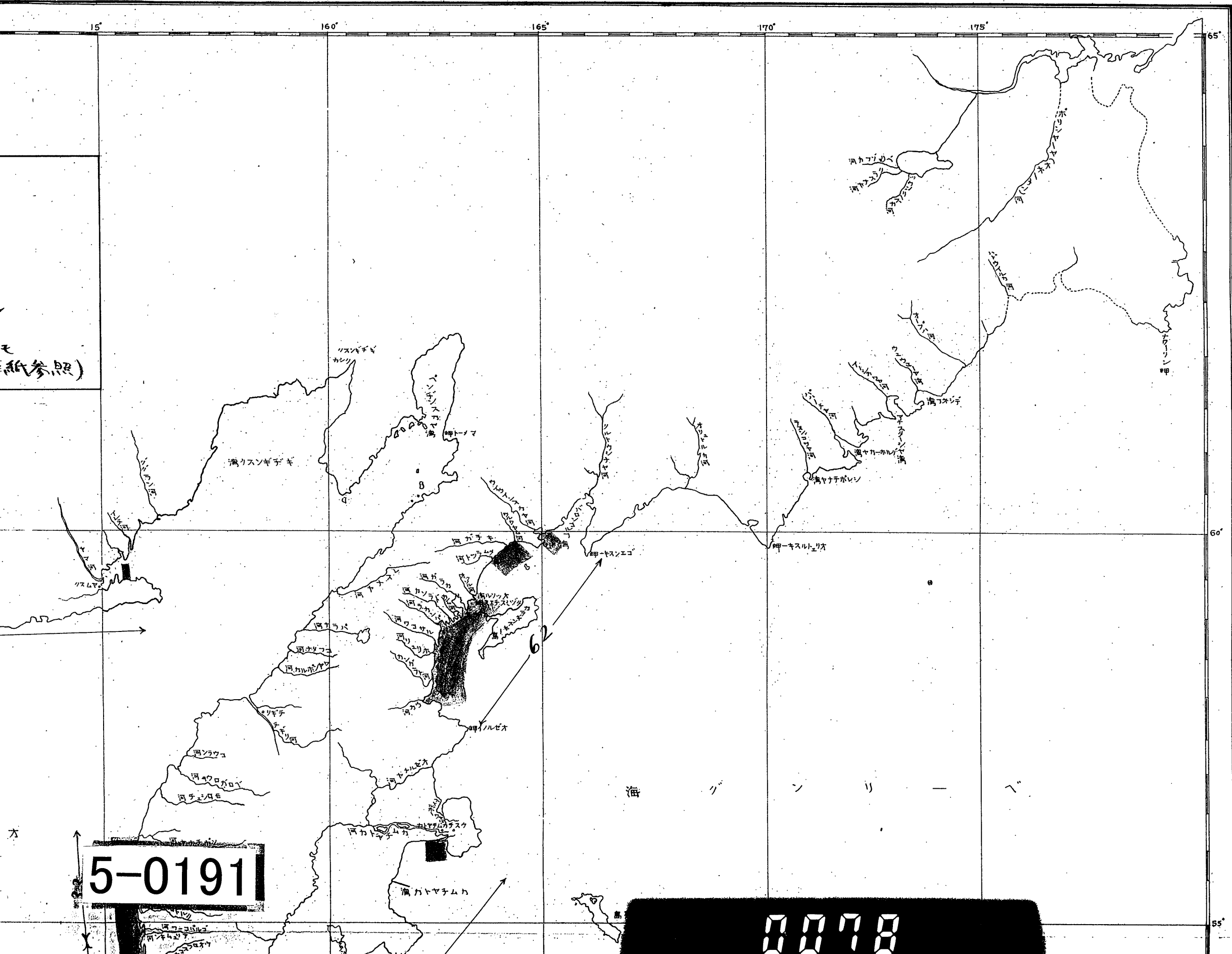
0076



5-0191



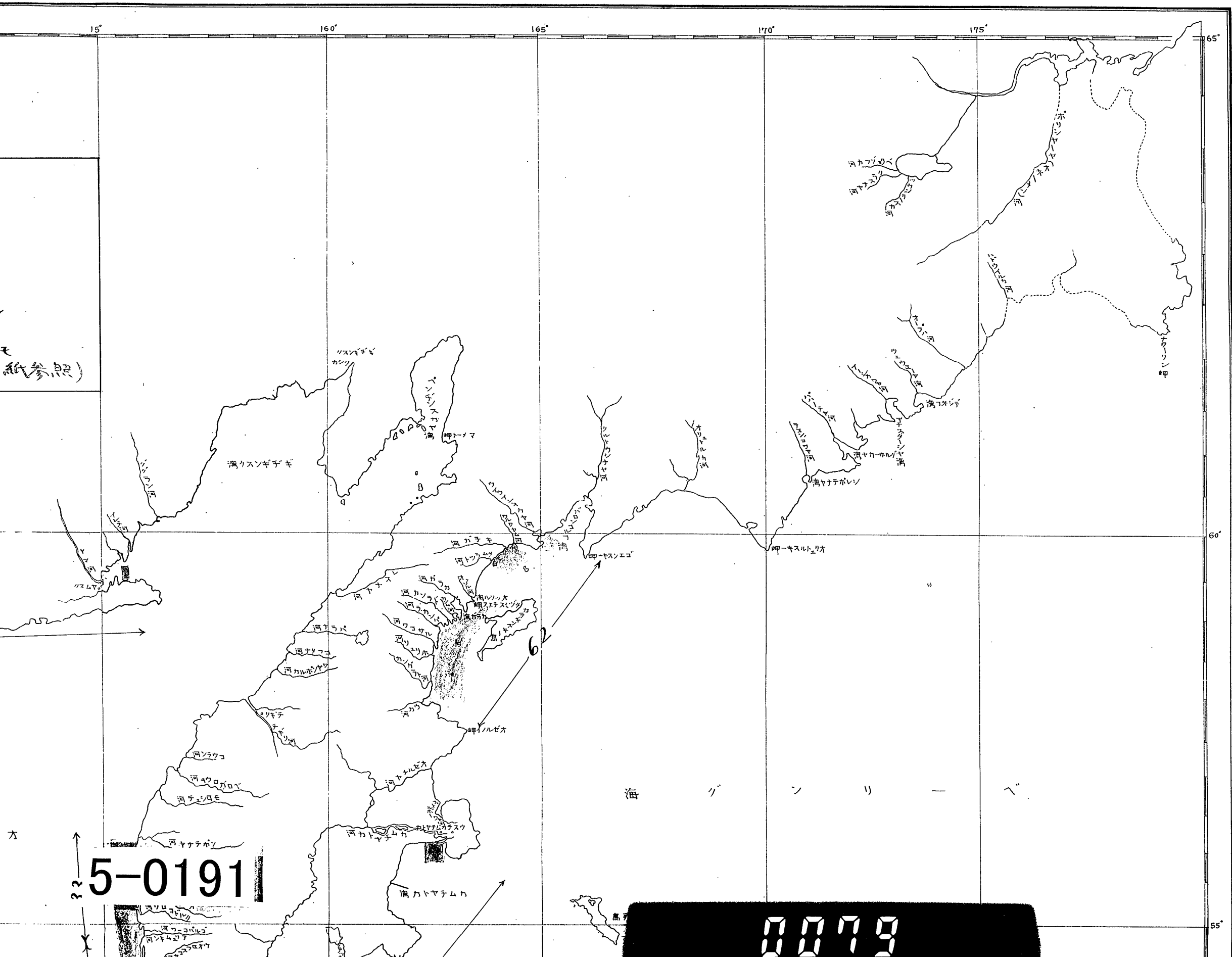




紙参照)

5-0191

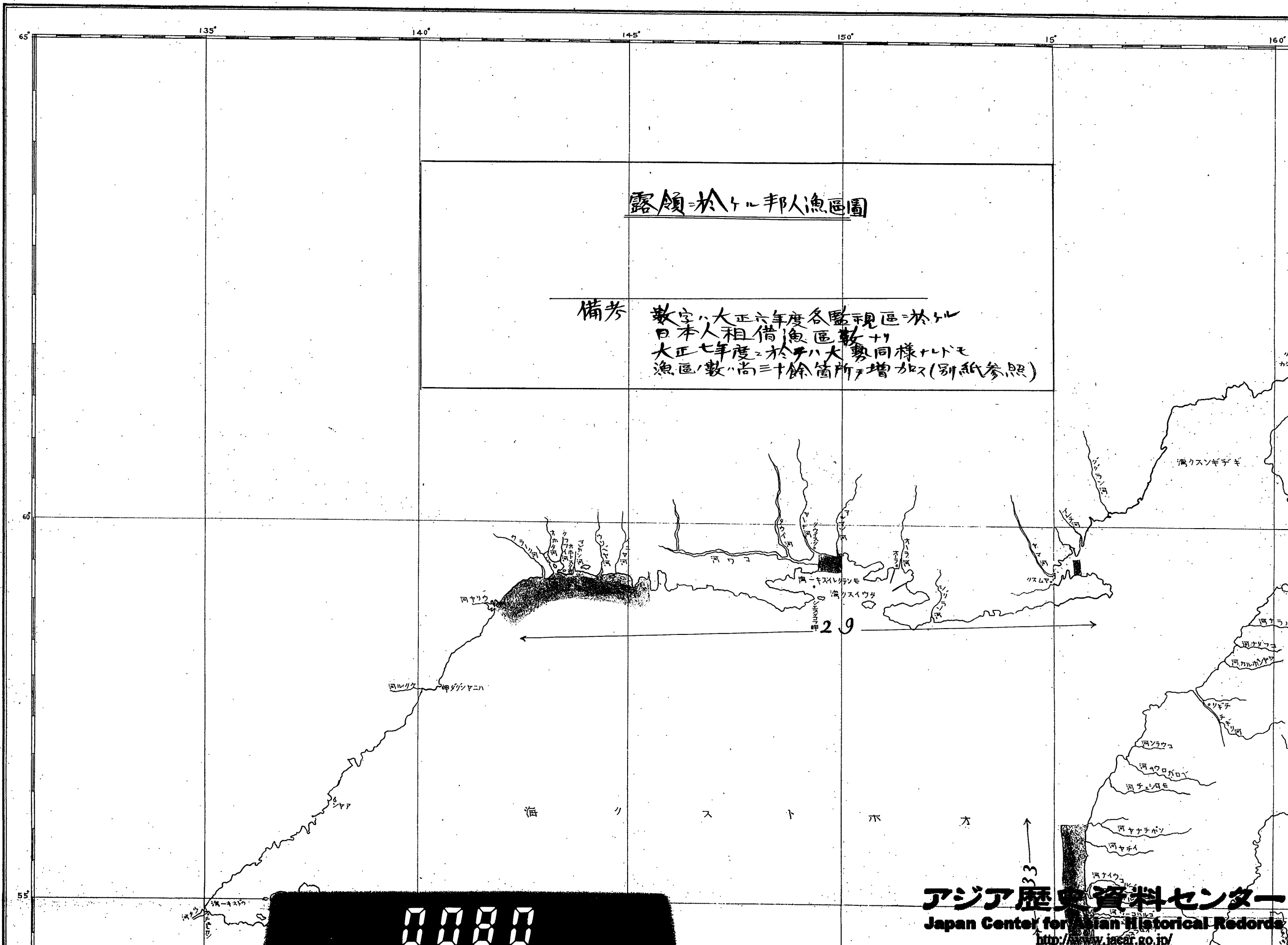
0078



天  
紙参照)

5-0191

0079

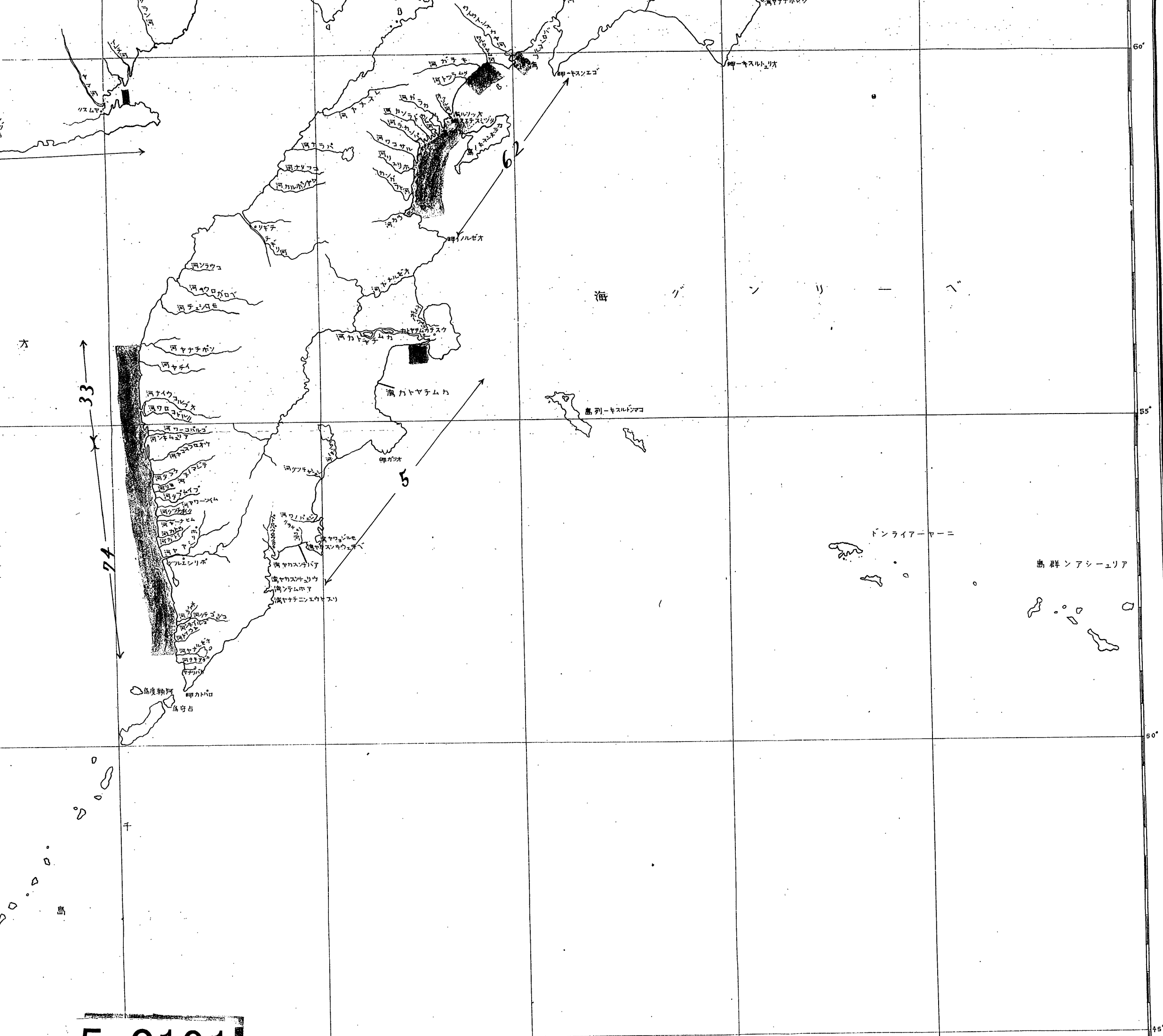


露領於トル邦人漁區圖

備考 数字ハ大正六年度各監視區於トル  
日本人租借漁區數ナリ  
大正七年度ニ於テハ大勢同様ナドモ  
漁區數ハ尚三十餘箇所ヲ増加ス(別紙参照)

5-0191

0000

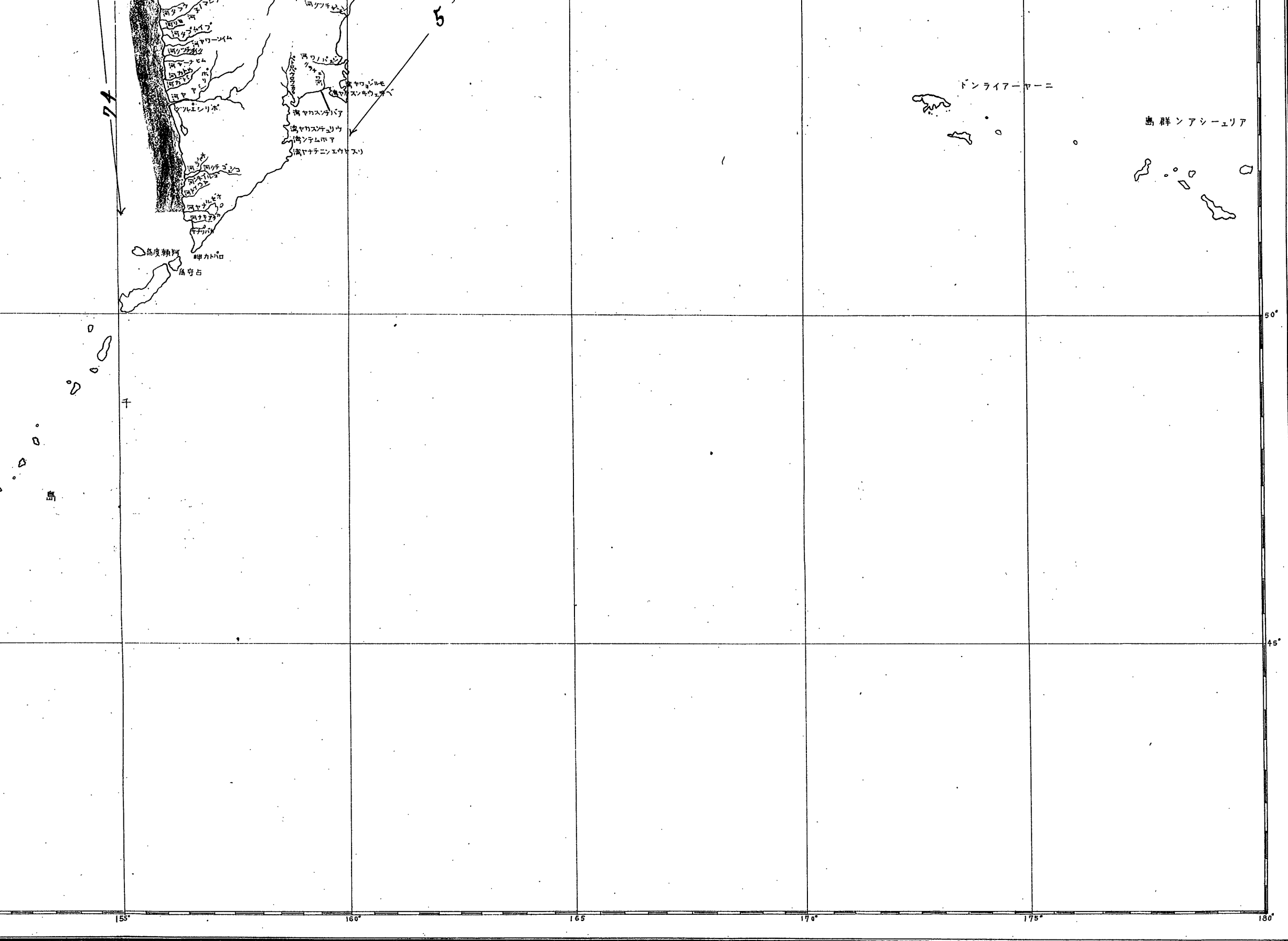


5-0191

0001

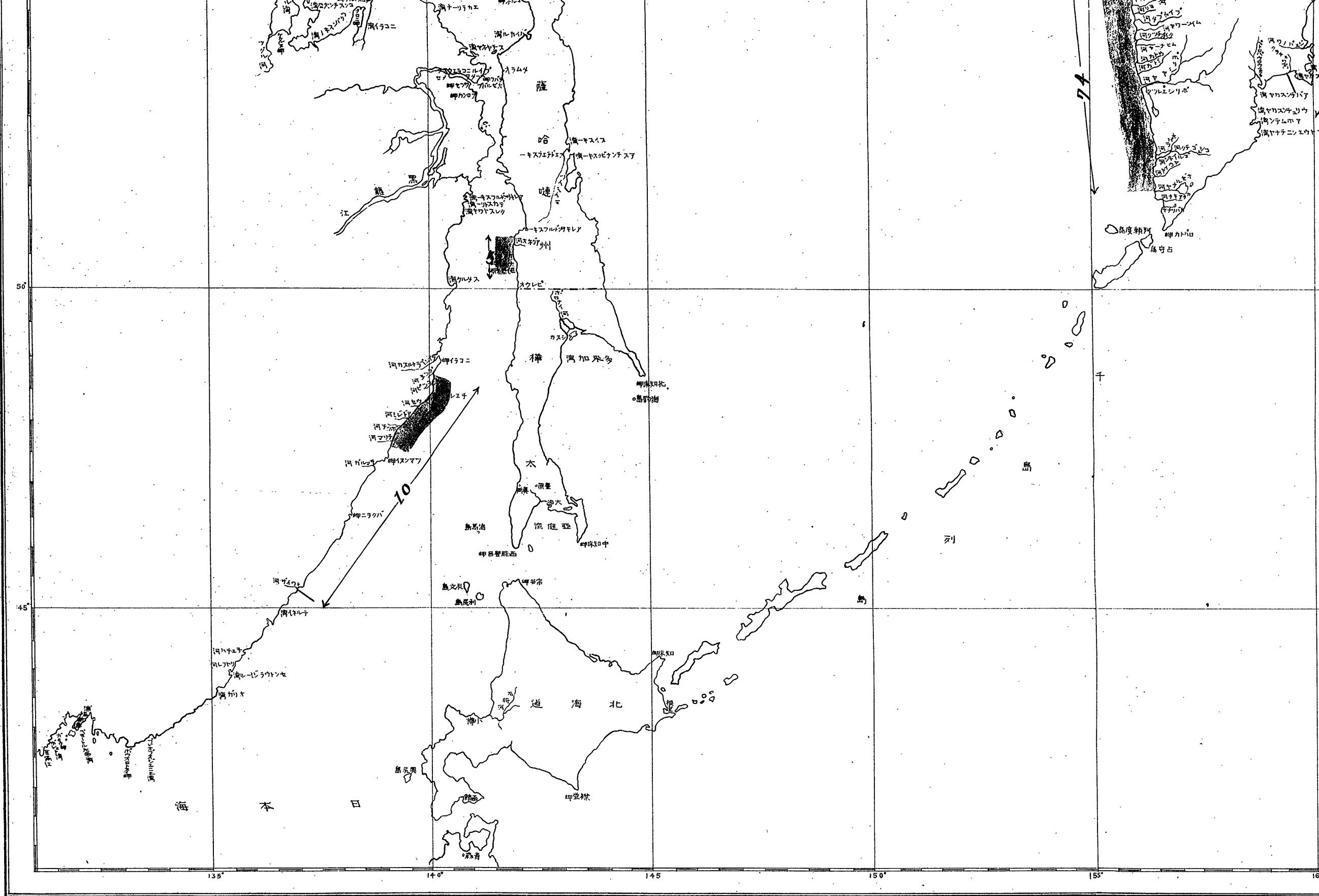






5-0191

0004



5-0191

0005



電信課長  
生

大臣

次官

七

七一九  
暗

華盛頓發  
本有署  
大正七年五月  
三日九時

後洋外務大臣

石井大使

主  
政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

要書  
濟

第十四門

貴電第一三〇號三關  
軍艦吾妻、石炭代、三方、四、八、百、九、十、五、席  
九、十、四、仙、中、央、金、庫、ヨリ、送、附、ア、リ、九、處、其、儘  
國、務、省、ニ、交、附、シ、テ、左、支、ナ、キ、ヤ。

石井 敬

第四號

第十四門

會計課長 藤田

電送第二六一六號  
七年九月廿六日 時六分

事務課長 藤田

上

第二課

五

六

藤田

藤田

後取大臣

左米

石井 左使

第一三三三号

米名 第一三三三号 右 運金 俵 海軍省

ヨリ 当省 へ 通 知 済 ム ナリ 居 タル 事 事 状 ニ ハ 尤

モ 係 事 付 セ シ 事 也

外務省

5-0191

0007

石代

海軍

大正七年五月二十一日

板原秘書官

武蔵中野書記官官廳

軍艦五番の石代代官

先刻仰奉談、何取調一様、右に本年三月二十日財政送  
 第ニ四号貴省代官より貴省代官宛仰照會、其を  
 軍艦五番の「パールハーバー」に於ける採炭費用トシテ  
 石井大使宛送金トシテ有之、當時仰貴省自一通社名ヲ  
 通知シテ仰手取リ煩ハシク、是レ以テ貴省長ク為漏ルル  
 事トシテ、別紙一紙、仰送ニ付、右の事、可然以テ、石代  
 通テ、石井大使ヨリ貴省大臣宛電報、第ニ四号、甲  
 公第ニ七号トシテ、多分、公第ニ七号、一紙、トシテ、不  
 明ニシテ、石代代官ヨリ、御座

（加藤）



Consulat Imp' du Japon

Saigon, le 3 Mai 1918.

191

SAIGON

(Cochinchine)

第 門

第 門

A Son Excellence K. S H I D E H A R A,  
Vice-Ministre des Affaires Etrangères.  
à T o k y o.

大正七年五月廿一日接受

14054號

Excellence,

J'ai l'honneur de vous rendre compte du séjour que viennent de faire dans notre port, 4 Contre-torpilleurs de la Marine Impériale dont le "Hatsuharu", portant le guidon du Commandant

MASAKAZU YAMASAKI.

Arrivé à Saigon le mercredi 1er Mai à 5 heures de l'après-midi, le Commandant Masakazu Yamasaki fut salué par le Représentant du Commandant de la Marine en Indochine, et par

moi-même, en l'absence de M. GRAMMONT actuellement en voyage.

Le lendemain, dans la matinée, j'accompagnais le Commandant Masakazu Yamasaki dans ses visites officielles au Gouverneur de la Cochinchine, au Capitaine de Vaisseau, Commandant la Marine en Indochine, et au Général, commandant les troupes de Cochinchine et le Point d'Appui du Cap Saint-Jacques.

Dans la journée du jeudi, les Officiers du bord firent avec les automobiles mis à leur disposition par le Consulat et par le Gouvernement, des promenades dans le environs de Saigon, jusqu'aux chutes du Tri-An (sur la rivière DONAI, à 65 kilomètres de Saigon).

Le même jour, est allé, chez le Commandant de la Marine

駐  
政  
務  
局

第  
一  
課

森田

森田 事務局長 宛

5-0191

0009

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

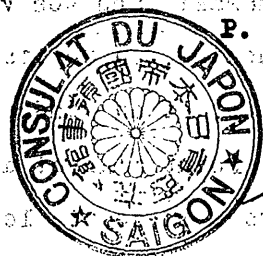
un déjeuner offert au Commandant Masakazu Yamasaki et aux quatre commandants des contre-torpilleurs.

Au cours de leur séjour, il fut fourni aux 4 contre-torpilleurs du charbon Japonais en quantités suffisantes pour leur permettre de poursuivre leur route, et aussi 8 tonnes de briquettes de charbon de Hengay qui furent réparties, à la demande du Commandant Masakazu Yamasaki, à raison de 2 tonnes sur chaque contre-torpilleur pour faire des essais comparatifs de combustible. Ces 8 tonnes de charbon furent fournies par l'Arsenal de la Marine Nationale. L'eau douce nécessaire aux contre-torpilleurs fut également fournie par cette dernière.

Le départ des 4 contre-torpilleurs eut lieu le vendredi 3 Mai.

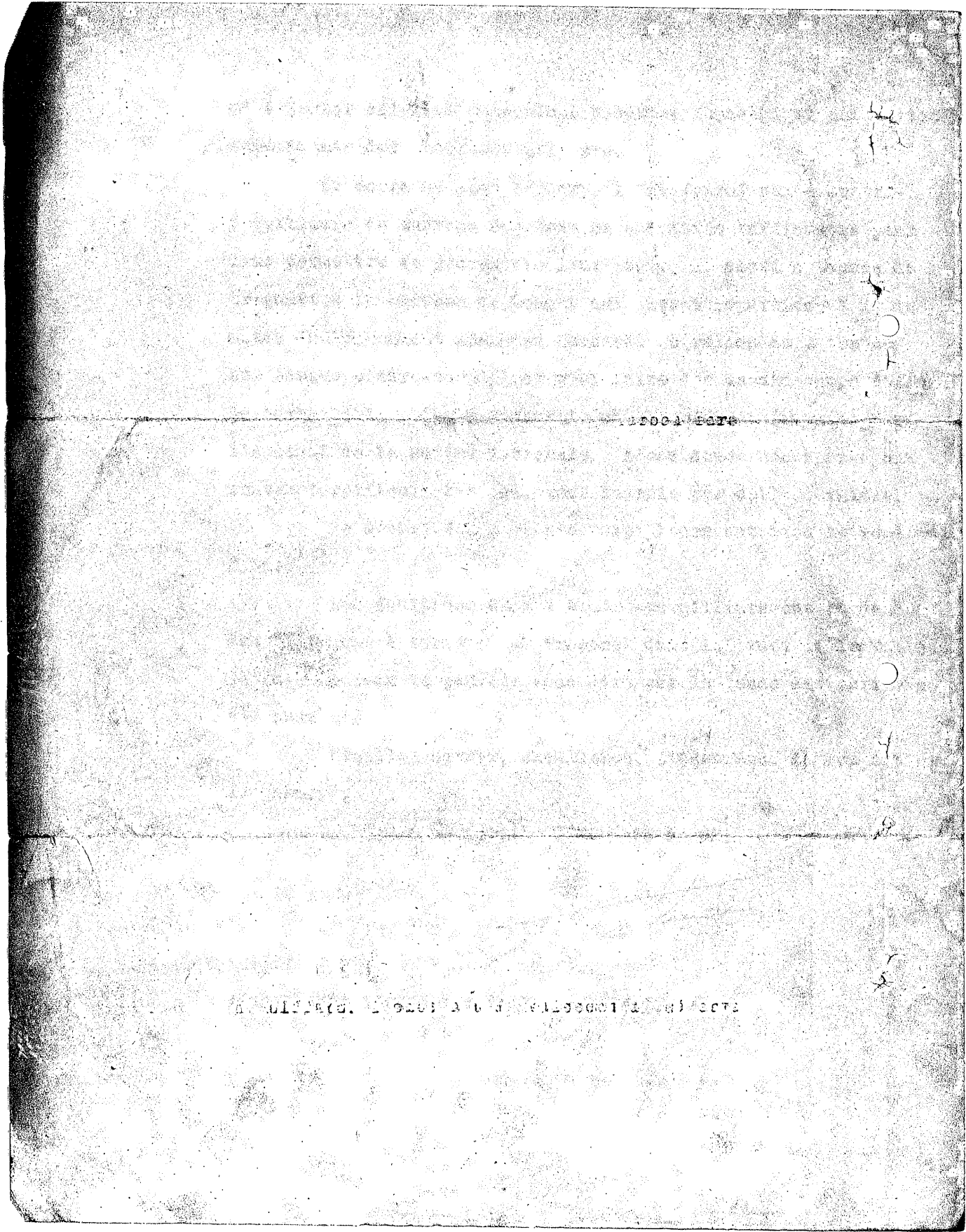
Les équipages de ces contre-torpilleurs ont pu descendre librement à terre et se promener dans les rues de la ville; je suis heureux de pouvoir vous dire que la tenue des marins a été parfaite.

Veuillez agréer, Excellence, l'assurance de mon entier dévouement.



P. Le CONSUL DU JAPON,

A. LITTAYE, Lieutenant de Vaisseau de Réserve.



5-0191

0091

文書課長

大正 年 月 日 起草  
大正 年 月 日 附

送第

號

主管

主任

譯



送第 號

主管

千九百十八年五月三日西貢ニ於テ

名譽領事代理 豫後海軍大尉アリッテ工

幣原外務次官閣下

拜啓陳者本官ハ山崎(正策)司令ノ坐乗

セル日本帝國驅逐艦「初春」外三隻ノ驅逐

艦ノ當港碇泊中ノ狀況ヲ左ニ及報告候

外務省

5-0191

0092

山崎司令官  
の  
山崎司令官  
の  
山崎司令官  
の

山崎司令官ハ去ル五月一日(水曜日)午後五時西  
貢ニ來着セラレ其際印度支那海軍司令官  
代理及「グラモン」氏目下旅行不在、為本官ハ  
之ヲ出迎へ羽立日午前中同司令官本官ト同道  
シテ交趾支那知事、同陸軍司令官陸軍少將  
印度支那海軍司令官海軍大佐及 (Le Point d'In-  
qui du Cap Saint-Jacques) ヲ公式ニ訪問致サレ候  
木曜日乘組將校ハ領事館及政廳ヨリ

差廻シノ自動車ヲ西貢附近ヲ散步旁々  
西貢ヲ距ル六五「キロメートル」ノ所ニアル「ドナイ」河  
附近ノ「トリアン」瀑布迄散策ヲ試ミ同日海  
軍司令官邸ニ於テ山崎司令官及四名ノ驅逐  
艦長ノ為ニ午餐會ヲ開催致シ候  
右四驅逐艦ニ對シテハ「破油中」今後、航海ニ足  
ルヘキ日本石炭ヲ供給致シ且山崎司令官、依  
賴ニ基キ燃料ノ比較試用ノ為各驅逐艦





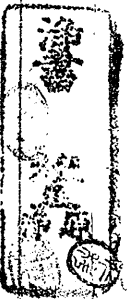
へ貳噸宛ノ割合ニテ都合八噸ノ<sup>ホンゲール</sup>煉炭ヲ  
夫々分配致シ候該煉炭ハ海軍工廠ノ供給  
ニ係ルモノ有之<sup>同</sup>廠ハ右驅逐艦用ノ淡水ヲモ  
供給致シ候

該驅逐艦<sup>隊</sup>ハ五月三日(金曜日)拔錨致シ候  
各艦乗組員ハ自由ニ上陸ノ上市内ヲ散歩スル  
コトヲ得且艦員一同ノ態度ハ立派ナリシ事ヲ  
茲ニ申添置候敬具

文書課長

大正七年五月廿一日發

79



大正七年五月廿七日  
同、年、月廿二日  
附 大正七年五月廿三日發送

大正七年五月廿七日

主任



第 門

大 務

立 浦 衛

後 方 臣  
策 池 總 領 事

軍 艦 武 藏 派 遣 之 事

件

大正七年五月廿七日 記 第二部 接 受

今 般 警 備 之 為 希 不 軍 艦 武

藏 之 千 島 列 島 至 廣 領 海 一

派 遣 スル 艦 船 之 日 船 八 隻 六 日

ヨリ 九 月 三 日 官 於 適 宜 處 於

領 海 之 出 入 可 以 與 海 軍 省 之

通 報 有 之 矣 策 右 様 此 事 知 上

之 旨 官 憲 之 對 今 日 派 遣

社 之 任 務 何 等 時 向 之 係 係 予 予

5-0191

0095

備、過、チ、ヤ、ン、各、商、程、以、本、年、先、乃  
ニ、於、テ、解、解、チ、中、標、可、然、由、以、計  
本、年、以、中、進、也

別、紙  
右、紙、五、日、十、日、付、海、軍、省、官、房、様、出、  
（外、七、二、七、号、一、五、付、房、番、一、地、回、リ、降、ウ、）（寫）

外務省



5-0191

0096

電信課長

長

大臣  
次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

七四〇三  
平

浦潮登  
本有着

大正七年五月  
二十日午前九時五  
十分台六四二

後藤外務大臣

菊池總領事

通機密送才一二号ニ関シ「ニコラエフスク」ハ無  
論同文訓令マシタニ事ト思考スル所当地官  
憲ハ申入レノ都合アリニ付果シテ然ルヤ急念  
電報ヲ請フ。

(軍艦武蔵浦所派遣)

返電

大正七年五月廿一日記録第二號

文書課長

大正七年五月廿七日接獲

別紙

大正七年五月二十八日

大正七年五月廿八日發送濟

政送第七一號

主任第一課

主任秘書局長

幣外務次友

枋内海軍次友

驅逐艦初春の三隻ニ関スル件

要印

第10門

本件四紙

本件ニ關シ在西貢名譽領事代理ヨリ  
別紙寫ノ通報告有之候ニ付爲御參考右茲  
ニ及御送付候也

別紙受一四〇五四號

添付ノ事

5-0191

0098

文書課長

五

大正七年五月廿九日

號

電信案(勝)

主官 通信局長

主任

電送第二十九號  
七年五月六日

左浦

後後大臣

菊池総領事

第一三三號

電報第三二七號ニ関シカム

大正七年五月廿一日

外務省

サツカ「夜憲」ハ「トロパウロフスク」  
新任領事ヨリ中入レシムル  
考「山」ヲ「ニコラエウスク」ハ  
「海軍省」ヨリ「信」ヲ「移」  
スルニ止メタルニ付「夜」ヨリ「夜」  
夜憲ハ中入「夜」ハ「レ」









附類添附

大正七年六月廿六日接受

註政務局

第二課

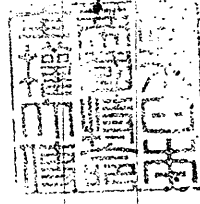
公第 二二三三號

別紙添

大正七年六月三日

在 米

特命全權大使子爵 石井菊次



外務大臣 男爵 後藤新平 殿

軍艦吾妻ノハールバールニ於ケル採炭  
費用ノ内ニル件

本件ノ内ニ一月廿六日付公第三七號信ヲ以テ

軍艦吾妻カ供給ヲ受ケタル反シテ代金送附

方及南テ請置候處四月十九日遣米軍艦費ト

シテ邦貨四萬九千九百四十一円廿五銭五厘(換算

在米國日本大使館)

米金二萬四千八百九十五弗九十四仙)ノ高中央金

庫ヨリ送附有之領收候處右ニ内シ何レヨリモ

何等通報ニ接セス候向取計方ニ内レ為念

五月十四日付往電第ニ五四號並ニ五月廿日付往電

第ニ六ニ號ヲ以テ同島候處五月廿一日付貴電

第一三三號ヲ以テ右金額其儘國務省ニ交付

方差支十キ旨御回答ニ接シ候ニ付直ニ交付方取

計置候處五月廿八日付ヲ以テ國務省ヨリ別紙

寫ノ通右領收ノ旨回報有之候向取様御

了義相成度此段申進候也



The Secretary of State presents his compliments to His Excellency the Japanese Ambassador, and acknowledging the receipt of his note of the 22d instant has the honor to inform His Excellency that the check for \$24,895.94, therewith transmitted in payment for coal supplied to the Japanese man-of-war AZUMA by the Naval Station at Pearl Harbor, has been sent to the Secretary of the Navy.

Department of State,

Washington, May 28, 1918.

(Signed) W. Phillips.

5-0191

0103

文書課長



大正七年六月廿六日

大正七年六月二十三日附

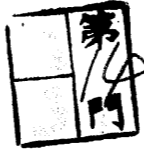
別紙

送第九〇號

主任 第二課 大正七年六月廿八日

主管 政務局長

海軍次官宛 幣原次官



軍艦吾妻ノ「パールハーバー」ニ於  
ケル採炭費用ニ関スル件

外務省

本件ニ関シ別紙字ノ通在米石  
井大使ヨリ報告致被ル様  
曲右ニシテ海軍為相國及以  
及

事務課長  
係長ヨリ附立米石井大使米石  
公外二三三子(附立米石)字尾  
ノコト

大正七年六月廿六日



第12350號

附類書類

大正七年七月四日 接獲

管政務局

第 二 冊

紙 添 付

機密第二〇號

大正七年六月二十一日

在マニラ

領事代理相原庫五郎

在マニラ  
領事印

外務大臣男爵榎新平殿

帝國軍艦マニラ入港通報方ニ関スル件

本件ニ関スル在新嘉坡帝國領事宛別紙公信寫  
茲ニ及進達候間御査閲ノ上可照其筋ノ御移牒  
相成候様致度此段申進候敬具

在マニラ日本領事館

通商局

新嘉坡

大正七年六月二十日

在マニラ

領事代理相原庫五郎

在新嘉坡

領事山崎平吉殿

帝國軍艦マニラ入港ニ関スル件

帝國軍艦ノ當港入港ノ場合ニハ成ルヘク早ク其事  
實ノ通知ヲ得ル様致シ度キ趣ヲ以テ別紙寫ノ通リ  
總督書記官長ヨリ照會有之候處當時山官旅  
行中ニ付事重大ト認ノ何等ノ措置ヲ取ルヲ見合セ  
不取敢在ニ對スル受信ノミヲ廢シ置候趣ニ付取調

在マニラ日本領事館

候處右ハ四月二十四日帝國軍艦淡入港ノ際ニハ其  
前日二十日午後七時貴官ヨリ「帝國軍艦淡本邦  
へ帰航ノ途次来ル二十四日午前貴地着三日炭泊同シ  
軍艦須磨ハ明後二十四日當地発五月一日貴地着  
六日間炭泊ノ豫定ナリ」(本文ハ少シク変更シカリ)トノ  
電報接手致候ニ付翌朝早速其旨總督並「キヤ  
ロテ」及「オロンカ」軍港司令官「シンボン」大佐等へ通報  
方取計ヒ置候處海軍當局ヨリ沿岸所備司令官  
へノ通報入港當日トナリタルニ基因セルト令明致候  
モ右照會ノ次第モ有之候ニ付將來帝國軍艦當港  
入港ノ場合ニハ海軍部ハ「キヤロテ」在リ通信ニ時周  
要スル次第ニモ有之候條少ナクモ入港ノ三四日前ニ其旨  
御通報相成候様致度此段申進候也

本信寫送付先 外務大臣 香港總領事

在マニラ日本領事館

5-0191



OFFICE OF THE GOVERNOR GENERAL  
OF THE PHILIPPINE ISLANDS

Manila, April 25, 1918.

Sir:

I have the honor to inclose herewith a communication received from the Department Commander, Philippine Department, U.S. Army, Manila, which is self-explanatory.

I know that you would appreciate the importance of the suggestion made by the Department Commander with respect to request that you make to your government proper representation in the premises.

I have the honor to be, Sir,

Your obedient servant.

Secretary to the  
Governor-General.

Honorable Kuregoro Aibara,  
His Imperial Japanese Majesty's Acting Consul,  
Manila.

HEADQUARTER PHILIPPINE DEPARTMENT  
MANILA

April 24, 1918.

From: Department Commander.

To: Secretary to the Governor-General, Manila, P.I.

Subject: Visit of Foreign vessels of war.

1. The commanding officer of the Coast Defense of Manila and Subic Bays is required by War Department orders to treat as hostile any war vessel he is unable fully to identify, and for this purpose the display of the ensign and other marks which might be imitated is insufficient under his instructions. It will be seen, therefore, how important it is that all possible information of intended visits of friendly war vessels be furnished as long in advance as possible.

2 It is suggested that proper representation be made to the Japanese Consul-General in Manila so that longer notice than in the case of the "Yodo" arriving today be furnished of intended visits of Japanese vessels of war.

3 It is also desirable to have information of this character in writing in order to minimize chance of error.

(sgnd)

Major, 9th Cavalry,  
Chief of Staff, In absence of the  
Department Commander.

5-0191

0100

文書課長

文書課長

大正七年七月五日 接

10

機密

要馬四

通商局

第14門

大正七年七月五日 起草

七月六日 附

大正七年七月六日 發送

政達第九九號

主任第二課

主管政務局長

幣原次官

海軍次官宛

帝國軍艦「マニラ」入港通報

方ニ関スル件

外務省

本件ニ関シ別紙写ノ通左「マニラ」  
相原領事代理ヨリ報告致越ル  
ニ付各由右ニテ承知相成度也  
段及移課候也

別紙左「マニラ」相原領事代理来信様案  
（其ニ号）（七年六月二十日附）字係「ト」





青島軍艦隊の報告

電信課長

大臣 閣下

次官

七

後藤外務大臣

渡辺領事

政務 第二三号

青島第二〇号二箇

軍艦務島ハ七月二十四日 Enagunmadt 入港以來

艦長以下兵員ニ至ル迄乗組員全部在在官民

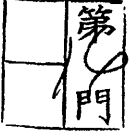
ヨリ誠意アル歓迎ヲ受ケタリ今回全艦ノ未航

ハ四ノ物並ニ日本向ノ親善ニ貢献スル虞莫

大ナルモノアリシト認ム今艦ハ本日午後四

時長崎航ノ途ニ就ケリ

板



參政官

副參政官

文書

會計

人事

通商

政務



第14門

秘受14410號

大正七年八月十三日接受

管政務局

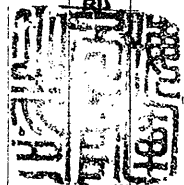
第二課

海軍

官房機密第一二三四號

大正七年八月十二日

海軍次官 枋内會次郎



外務次官 幣原喜重郎殿

布哇方面派遣ノ帝國軍艦交代ノ件

帝國軍艦常磐布哇諸島方面行動ニ關シテハ客年十一月官房機密第一八八二號ヲ以テ照會致置候處同艦ハ本月中旬布哇方面發歸航ノ途ニ就キ右代艦淺間（艦長海軍大佐古川弘）ハ本月中旬内地發同下旬「ホノルル」入港ノ豫定ニ有之候條右御了知ノ上「ホノルル」、桑港、「ロスアンゼルス」、「シアトル」、「ボートラント」、及晚香港駐在各帝國領事ニ内牒方御取計相成度

（安田）

右照會ス

終

七平子軍艦出帆

第 門

電送第 七 七 六 號  
七 月 十 日

支

政務官

第二課

外務大臣

トビ立ホルル

諸井 総領事宛

才二八

貴地方面行動中ノ軍艦

常 磐 崎 航ノ途ニ就キ

代艦トシテ海召(艦長古川 弘)

本月下旬貴地入港ノ後

外務省

桑 港、ロスマンセルス、ニアトル、ホルト

ニレト、晚香坡、替電、アウロシ

七 月 十 日 電 送 第 七 七 六 號

5-0191

0112

第10門

28960

在シト帝國領事館

公第 七  
 大正七年九月四日 陸  
 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

在シト帝國領事館

航海長 辻中 以下外 十四名

第一團 砲術長 松嶋 以下外 九名

第二團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第三團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第四團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第五團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第六團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第七團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第八團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第九團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十一團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十二團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十三團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十四團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十五團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十六團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十七團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十八團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第十九團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十一團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十二團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十三團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十四團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十五團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十六團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十七團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十八團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第二十九團 副艦長 黒田 以下外 十二名

第三十團 副艦長 黒田 以下外 十二名

5-0191

5-0191

0114

在シアトル帝國領事館

訪向ノ途ニオキテ見立  
今四ノ島船事ノ如キ一當知見學ノ事ニ在留民ノ國  
ヲ米西人國ノ下ニ高事會ノ議中ノ事ニ於テ米西人  
ノ便宜ヲ付シテ申出有之クハ殊ニ米西海軍側ノ  
於テハ極メ好意ヨリ衣新ノ軍艦ヲ贈ルガ云カモト  
ニ考ヘテ見立トシテ司會及ハ特ニ副及リ同他ノ  
テ好意ノ表セヨトモトトモ一重ハ書友ノ當他事亦  
此ノ艦長以下ノ實學士及同當他滞東中ノ絶下  
ハッケー方尉ヲ接付ノ件ハ當メハッケー方尉ハ  
學問ノ對シテ米西海軍ノ又ハ於テハ司會及ヲ代  
表シ毎度快意ハ知ルヘシ付違ハ知ル有之又  
艦長以下ノ司會及ノ件ハ司會及ノ事ニ至テモ  
他將校以下中試知ル可ラシキ事ノ由司會及

在シアトル帝國領事館

夫人ハ好シ草葉ヲ修テ幕僚ヲ授並ニ夫人連トセニ
お艦長外士多之る事多ク致付由ル右米西海軍
側ノ好意ヲ知ルコトハ艦長ノ復人致付有之ト云
ノ事ハハッケー方尉ノ司會及以下接付士及ノ事
ハハッケー方尉ノ我見當事ニ付シテ好意ヲ知ル由
ル事ハハッケー方尉ノ司會及ニ付シテ好意ヲ知

好意

電信課長

大臣

次官

内田外務大臣

大暗

新嘉坡大正七年十二月七日  
本署着全 八日前三三〇

山崎領事

政務

第七八号

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

要  
復  
書

濟

當地日本人會ハ十二月五日臨時評議員會ヲ開  
キ左ノ趣旨ノ請願ヲ決議シ且加藤海軍大臣ハ  
具申方並右ノ趣旨不取取電報方申出テタルニ  
付テ以テ取計相成タシ  
戰時中我國運ノ大勢ニ伴ヒ南洋各地ニ於ケル  
邦人企劃ノ諸事業者々緒ニ就タルモ其確實ナ  
ル發展ヲ期センニハ前途猶一層ノ努力ヲ要ス

極  
密  
字

山崎

ルモノアリ並界平和ヲ見ルノ曉益々我商權ノ  
伸張並在留邦人ノ發展ヲ擁護スル爲メ今後引  
續キ長ク帝國軍艦ノ當方面以遣巡航ヲ見シユ  
ト當地在留民一般ノ切望已マサル處ナリ

山崎領事



電信課長

大臣  
次官 **十**

政務 **十**

通商

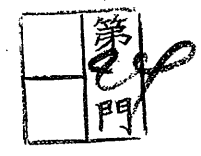
人事

會計

文書

參政官

副參政官



主様

此の旨は御座りませぬ

幸甚候御座りませぬ

一六二七五

馬尼刺 大正七年十一月廿九日  
寄附金 法七四四丁八分

相原領事代理

内田外務大臣

第七九號 軍艦矢矧 殆ト總員悪性感冒ニ罹リ去ル五日入港唯今迄ニ副長

以下十五名病死アリ看護通信會計其他萬般ノ用辨ハ米國官憲及居留民ノ手

助ケテ得ツツ當館主トシテ其任ニ當リ機宜最善ノ方法ヲ講シ居レリ併發症ナキ

モノハ順次快復シツツアリ

伊崎子(平島一政ノ降参)

孫

使用人料車馬費トシテ事件費中ヨリ三百円渡切費ニ御支出方御詮議相成ル様致シタシ



文書課長 文書課  
長檢印

大正七年三月十日 接受

69

事務課

大正七年 五月 九日 起草

五月 九日 附

大正七年三月拾壹日發送済

政務送第 九七 號

主任 藤三 藤原

政務局長 長

海軍 次官 兼 幣原 次官

第14門

要目付了

外務省

南洋方面へ軍艦派遣(一)航方  
新嘉坡日本人会より請願書付

十二月五日新嘉坡日本人會ニ於テ臨時新  
議員会ヲ開催シ左記趣旨請願スルコト  
ヲ決議シ右貴大臣ニ具申中方在岡地  
山崎領事ニ申出ル趣ヲ以テ岡領事ヨリ  
不取敢來電有之ハ向茲ニ及紹煤  
也

記

南洋各地ニ於テ邦人企劃ノ活ヲ望ム  
戰時中我國運ノ大勢ニ伴ヒ南洋各地

南洋方面へ軍艦派遣(一)航方



於此本邦人企劃諸事業業着々<sup>在</sup>  
ニ就<sup>キ</sup>タルニ其確実ナル發展ヲ<sup>在</sup>期<sup>ス</sup>センハ  
前途猶一層、努力<sup>力</sup>ヲ要ス<sup>ル</sup>ニ世界平和  
ヲ見<sup>ル</sup>ニ曉<sup>ル</sup>ニ我商權、伸張並に在商  
邦人、發展ヲ擁護ス<sup>ル</sup>為今後引續キ  
長<sup>ク</sup>帝國軍艦、當方面派遣巡航<sup>ス</sup>  
見<sup>ル</sup>ニト當地在商民一般、切望<sup>ス</sup>中<sup>ニ</sup>在<sup>リ</sup>  
康

外務省

六時

新嘉坡癸大正七年十二月七日午後三時  
本省着 全 八日前〇三五

内田外務大臣

山崎領事

第七八号

當地日本人會ハ十二月五日臨時評議員會ヲ開  
キ左ノ趣旨ノ請願ヲ決議シ且加藤海軍大臣へ  
具申方並右ノ趣旨不取敢電報方申出テタルニ  
付テ<sup>然ル</sup>御取計相成タシ

戰時中我國運ノ大勢ニ伴ヒ南洋各地ニ於ケル  
邦人企劃ノ諸事業着々緒ニ就タルモ其確實ナ  
ル發展ヲ期センニハ前途猶一層ノ努力ヲ要ス

ルモノアリ並世界平和ヲ見ルノ曉益々我商權ノ  
伸張並在留邦人ノ發展ヲ擁護スル爲メ今後引  
續キ長ク帝國軍艦ノ當方面以遣巡航ヲ見ンコ  
ト當地在留民一般ノ切望已マサル也 ナリ

文書課長

大正八年一月十日

大正八年一月十日

大正七年正月廿八日

文書課

機密 第一五

大正七年十二月十日

在新加坡

領事 山崎 平吉

外務大臣子爵内田康哉殿

改 號 大正八年壹月拾壹日發送済

帝國軍艦常置方：果るに新加坡

日本人會請願書進達ノ件

當地日本人會：於テ十二月五日臨時

評議員會ヲ開キ 平和克復後高

引續當方面：帝國軍艦所進方

ニ關スル請願書ヲ決議シ之カ具申

在新加坡日本領事館

方並ニ不取敢電報方申出タル功第ハ

同七日拙電第七八號ヲ以テ及電

報置ル處 此ニ右請願書ニ由別紙

ノ通及進達候

開戦以來帝國艦隊、當方面警備

ノ任ニ當リ 幸ニ海上各事 航路安

全ナル由リ 最近一二年 邦人、南洋

各地ニ於ケル 商權擴張、諸航路開拓

並諸物ノ事業 隆盛等 着々トシテ 諸

ニ就キ 其活躍發展、状況洵ニ著シキ

モノ有之ル 慶 其事業、基礎未タ 確

實不抜ナリト 謂フハカラス 世界平和克

復核心スヤ 欧米ノ資本商品及船舶

第14回

20684

要

官

海軍

精

海軍者ノ私腹

ヲ此換

不似に似たつたもの

舊に倍に重なる時、方り本邦商人  
事業家等能く之に對抗し我勢力ヲ  
維持し益之カ伸暢ラ圖ルニ尚大ニ奮  
勵努力ヲ要スヘクト被存然レハ新嘉  
坡日本人會、於テ当地方在る民ノ意  
嚮ヲ代表シ本請願ヲ決議スルニ至リ  
タルニ至極尤儀ハ思料シテハ  
右可然片断計考或採決交此為  
及具甲一候 敬具

在新嘉坡日本領事館

新嘉坡在留邦人ヲ代表シ謹シテ一書ヲ裁シ閣下ノ堅右ニ呈ス  
 歐洲戰亂突發以來帝國ハ同盟ノ條規ニ從ヒ聯合國宣戰ノ目的ニ賛  
 シ友邦ノ為メ進テ敵ヲ東洋ノ天地ヨリ驅逐シ戰局ノ開展ニ伴ヒ其警  
 備區域ヲ擴大シ南洋印度ヲ超ヘ南阿濠州ニ及ホシ更ニ地中海上ニ於テ  
 ル運送船護送ノ任務ニ當リ斯ノ如キハ我史ニ空前ノ快事ニシテ國  
 威ノ發揚亦極メ大ナリト云フ可シ今ヤ敵國ハ一敗地ニ墜シ又起ツ可ラザル  
 ニ至リ世界平和會議ハ近クベルサイユニ官殿ニ開カレントスル時ニ當リ熟ラ  
 帝國臣民活動ノ舞臺タル南方ノ形勢ヲ觀察スルニ過去四年間當方  
 面於ケル邦人ノ發展ハ真ニ驚ク可キモノアリ試ニ新嘉坡ニ就キ之ヲ見ルニ  
 邦人ノ渡來日ニ益々多キヲ加テ資本家ノ投資商店ノ開設日ニ相次キ實  
 ニ指ヲ屈スルニ暇アラザラントシ蒙昧ナル土人モ今ヤ帝國ノ真價ヲ認メ兒童  
 走卒ノ輩往往ニシテ邦語ヲ操リ以テ得得タルノアルニ至リ馬來半島ニ於テ  
 ル邦人ノ租借地既ニ十萬英及ヲ超ヘ英領ホルネラ蘭領東印度諸島

**新嘉坡日本人會**

米領北律廣群島ニ於ケル邦人ノ租借地ヲ加フル時ハ既ニ廣大ナル面積ト  
 牢子タル地歩ヲ占ムルニ至ルト同時ニ我國船舶業者ヲ新タニ此方面ニ多  
 數ノ航路ヲ開キ旭旗ヲ翻セル船舶ノ往來又極メ頻繁トシ海ニ陸ニ  
 農ニ商ニ邦人カ將來此方面ニ於テ興隆致富ノ域ニ達セント期シ待ツ可  
 シ是洵ニ我國民カ此千載一遇ノ好機ヲ利シ奮勵努力カセル結果ニ外ナラズト  
 雖亦一方ニハ今次戰亂ニ際シテ帝國軍艦ノ常ニ當方面ニ在リ雄姿塵々  
 四邊ヲ壓シ遙ニ陸上ニ奮闘シツアル同胞ニ勢援ヲ與ヘ海上ニ於テハ我商船  
 ニ航路ヲ指示シ以テ危險ヲ少カラシメ海難等ニ際シテハ直接間接ニ與ヘラレタル  
 援助ノ効又決シテ勩シトセザルナリ  
 思フニ商權ノ振張ハ國權ノ發揚ニ伴フモノニシテ旭旗ノ翻ル所吾人大和  
 民族ハ血湧キ肉躍リ洋洋タル前途ヲ望見シテ神氣一殷ノ爽快ヲ覺ユ  
 ルノ概アリ斯ノ如ク在留邦人ニトリテ慰安者タリ刺戟者タリ保護者タル軍  
 艦ニシテ一朝盡リ故國ニ回航シ去リ新嘉坡港頭又一隻ノ止マリテ邦人發展ノ



象徴トナリキニ至ランカ在留邦人ノ落膽夫レ果シテ如何ナラン恰モ亦  
子ノ慈母ニ離ルカ如キモノアランノミ

抑マ新嘉坡ノ地タル東西ノ關門ニ衝リ豐饒ナル周圍ヲ擁シ物資  
集散ノ要地ニシテ夙ニ列強ノ囑目スルトコロナルヲ以テ戰後ノ商戰ハ正ニ激  
甚ヲ極ムク直接間接ニ邦人ノ上ニ加ヘラルル壓迫ハ想見スルニ足ルキアリ  
此有事ノ時ニ當リ動スルハ疾視ノ目ヲ以テ邦人ノ動作ヲ窺ヒ侮辱ノ手ヲ  
加ルノ期ヲ待チツアル競争者ニ任シテ確實ナル地歩ヲ獲得セントスルニハ  
一隻ノ軍艦ヲ猶且ツ彼等ヲ牽制シ彼等ヲ抑壓スルニ與キカアルモノトモ  
信ス邦人ノ南方發展ニシテ高岡ノ國ニ及スルモノヲ止ム邦人ノ當方面ニ活動  
スルトノ邦人前途ニ障害タラバ去邦人ノ南洋ニ於テ確乎不拔ノ  
地盤ヲ形成スルトノ我國百年ノ大計ニ背馳スルモノナラバ止ム可ク然ラザル  
限リ戰時中ニ於ケルカ如ク數隻ノ軍艦ヲ常ニ當方面ニ派遣セラル雄大ナル  
勢力ヲ以テ在留邦人ノ活動ニ助カフ與ヘラレシコトヲ切願キ止ム所ナリ

新嘉坡日本人會

茲ニ片ノ請願書ヲ奉呈シテ邦人一同ノ常ニ抱懷セル希望ヲ披瀝ス  
ル所因ノ者ハ真ニ邦人百年ノ長計ヲ樹立スルノ好機ハ今日ヲ措テ  
他ニ之ヲカク信ズバナリ披瀝クハ閣下ニ於テ清整ノ榮ヲ賜ハラシト  
ヲ謹ニテ請願ス

大正六年十二月五日新嘉坡某人會會長三神敬長

外務大臣子爵内田康武閣下  
海軍大臣加藤友三郎閣下